

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月8日

【四半期会計期間】 第69期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 東鉄工業株式会社

【英訳名】 TOTETSU KOGYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小倉雅彦

【本店の所在の場所】 東京都新宿区信濃町34番地

【電話番号】 03-5369-7698 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画本部経理部長 片岡紀雄

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区信濃町34番地

【電話番号】 03-5369-7687

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画本部経理部長 片岡紀雄

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
東鉄工業株式会社 横浜支店
(神奈川県横浜市西区平沼1丁目40番26号)
東鉄工業株式会社 千葉支店
(千葉県千葉市中央区弁天2丁目23番1号)
東鉄工業株式会社 埼玉支店
(埼玉県さいたま市大宮区桜木町4丁目247番地)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第68期 第3四半期 連結累計期間	第69期 第3四半期 連結累計期間	第68期
会計期間	自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高 (千円)	50,665,278	53,658,383	92,146,627
経常利益 (千円)	2,845,845	4,074,531	6,687,810
四半期(当期)純利益 (千円)	1,495,032	2,408,156	3,691,033
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	881,267	2,344,300	2,846,767
純資産額 (千円)	34,125,809	37,793,178	36,090,678
総資産額 (千円)	66,823,429	59,372,634	70,116,924
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	41.95	67.59	103.58
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	51.1	63.7	51.5

回次	第68期 第3四半期 連結会計期間	第69期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	14.51	8.19

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 第68期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、景気は緩やかな持ち直し傾向にあるものと見られる一方、先行きについては、欧州の政府債務危機等による海外景気の下振れリスクに加え、電力供給の制約や原子力災害の影響、さらには円高やデフレの影響などの懸念材料が依然残っている状況です。

建設業界においては、政府建設投資は、大震災対応の補正予算等により増加が見込まれ、また、民間建設投資についても、大震災後の停滞から持ち直し緩やかな回復基調にあるものと見られますが、民間設備投資は、円高や海外経済の動向などにより今後下振れする可能性もあり、受注競争が一層激化するなかで、業界全体の厳しい経営環境は依然続くものと考えられます。

このような状況のなかで、当社グループは、3ヵ年の中期経営計画の最終年度を迎え、目標達成に向けた諸施策を推進中であります。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、大震災の影響などもあり、復旧関連工事以外の受注が一時的に大幅に減少するなど、極めて厳しい受注環境となりましたが、前期繰越高に伴う鉄道関係の土木工事、及び一時的な特殊要因として大震災復旧工事等の計上があり、売上高は、前年同期比2,993百万円増加し53,658百万円となりました。

このような厳しい経営環境のなかで、不採算工事の徹底排除、原価管理の強化、種々のコストダウンなどに全社をあげて粘り強く取り組み、売上総利益は、前年同期比870百万円増加し7,415百万円となりました。また、貸倒引当金戻入額を販売費及び一般管理費に計上したことなどにより、営業利益は、前年同期比1,161百万円増加の3,729百万円、経常利益は、前年同期比1,228百万円増加の4,074百万円、四半期純利益は、前年同期比913百万円増加の2,408百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

(土木事業)

受注高は40,091百万円(前年同期比17.3%減)、売上高は39,625百万円(前年同期比14.4%増)となりました。

売上高のうち工事進行基準による計上額は17,387百万円であり、次期繰越高は26,420百万円となりました。

セグメント利益は2,828百万円となりました。

(建築事業)

受注高は15,022百万円(前年同期比11.1%減)、売上高は13,342百万円(前年同期比12.6%減)となりました。

売上高のうち工事進行基準による計上額は7,382百万円であり、次期繰越高は9,501百万円となりました。

セグメント利益は721百万円となりました。

(その他)

売上高は690百万円で、その主なものは不動産賃貸収入であります。

セグメント利益は178百万円となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は10百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	138,900,000
計	138,900,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年2月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	36,100,000	36,100,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であります。
計	36,100,000	36,100,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年12月31日	-	36,100,000	-	2,810,000	-	2,264,004

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 468,000 (相互保有株式) 普通株式 1,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,452,000	35,452	
単元未満株式	普通株式 179,000		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	36,100,000		
総株主の議決権		35,452	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式587株が含まれております。
- 3 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東鉄工業株式会社	東京都新宿区信濃町34 J R 信濃町ビル4階	468,000		468,000	1.30
(相互保有株式) 株式会社全溶	東京都練馬区東大泉2丁目 11-6	1,000		1,000	0.00
計		469,000		469,000	1.30

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

退任役員

役職名	氏名	退任年月日
常勤監査役	佐原 俊 樹	平成23年12月31日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	10,772,037	5,817,190
受取手形・完成工事未収入金等	38,222,789	27,316,044
未成工事支出金等	3,848,654	9,581,695
繰延税金資産	1,370,022	734,234
その他	2,182,493	2,409,600
貸倒引当金	414,454	118,805
流動資産合計	55,981,542	45,739,960
固定資産		
有形固定資産	6,426,407	6,180,706
無形固定資産	411,530	265,896
投資その他の資産		
投資有価証券	6,809,368	6,691,308
その他	2,453,809	2,377,280
貸倒引当金	1,965,734	1,882,518
投資その他の資産合計	7,297,443	7,186,070
固定資産合計	14,135,381	13,632,673
資産合計	70,116,924	59,372,634

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	23,136,378	13,468,752
未払法人税等	1,611,771	30,663
未成工事受入金	1,126,709	1,058,696
完成工事補償引当金	96,500	62,400
賞与引当金	1,340,128	705,937
工事損失引当金	658,202	610,922
災害損失引当金	31,323	7,200
その他	4,180,750	3,975,618
流動負債合計	32,181,764	19,920,190
固定負債		
繰延税金負債	75,879	71,249
退職給付引当金	549,633	441,005
その他	1,218,968	1,147,011
固定負債合計	1,844,481	1,659,265
負債合計	34,026,245	21,579,456
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,810,000	2,810,000
資本剰余金	2,350,582	2,350,582
利益剰余金	30,620,832	32,387,615
自己株式	152,403	152,830
株主資本合計	35,629,011	37,395,366
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	461,667	397,811
その他の包括利益累計額合計	461,667	397,811
純資産合計	36,090,678	37,793,178
負債純資産合計	70,116,924	59,372,634

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高		
完成工事高	49,892,629	52,967,969
付帯事業売上高	772,648	690,414
売上高合計	50,665,278	53,658,383
売上原価		
完成工事原価	43,630,113	45,853,534
付帯事業売上原価	490,249	389,714
売上原価合計	44,120,363	46,243,248
売上総利益		
完成工事総利益	6,262,515	7,114,434
付帯事業総利益	282,399	300,699
売上総利益合計	6,544,914	7,415,134
販売費及び一般管理費	3,976,533	3,685,469
営業利益	2,568,381	3,729,665
営業外収益		
受取利息	1,468	2,291
受取配当金	152,516	238,225
持分法による投資利益	45,067	22,658
社宅料	61,464	63,440
その他	26,461	21,150
営業外収益合計	286,979	347,766
営業外費用		
支払利息	9,023	13
その他	491	2,887
営業外費用合計	9,514	2,900
経常利益	2,845,845	4,074,531
特別利益		
貸倒引当金戻入額	2,702	-
固定資産売却益	140	-
特別利益合計	2,842	-
特別損失		
固定資産除却損	18,790	9,940
投資有価証券評価損	107,779	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	46,258	-
その他	36,932	15,274
特別損失合計	209,761	25,215
税金等調整前四半期純利益	2,638,927	4,049,315
法人税、住民税及び事業税	669,113	953,195
法人税等調整額	474,782	687,963
法人税等合計	1,143,895	1,641,159
少数株主損益調整前四半期純利益	1,495,032	2,408,156
四半期純利益	1,495,032	2,408,156

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,495,032	2,408,156
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	610,066	62,586
持分法適用会社に対する持分相当額	3,698	1,269
その他の包括利益合計	613,764	63,855
四半期包括利益	881,267	2,344,300
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	881,267	2,344,300
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。 なお、「金融商品会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号)が平成23年3月29日付で一部改正されたことに伴い、従来「特別利益」に含めて計上しておりました「貸倒引当金戻入額」は、第1四半期連結累計期間から「販売費及び一般管理費」及び「営業外収益」に含めて計上しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
偶発債務(保証債務) 連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対し債務保証を行っております。 (銀行借入金保証) 千円 (有)サン・イズミ 346,000 従業員(住宅融資制度) 245,279 計 591,279	偶発債務(保証債務) 連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対し債務保証を行っております。 (銀行借入金保証) 千円 (有)サン・イズミ 342,700 従業員(住宅融資制度) 218,699 計 561,399

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

当社グループの売上高は、土木事業及び建築事業において、契約により工事の完成引渡し第4四半期連結会計期間に集中しているため、第1四半期連結会計期間から第3四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が著しく多くなるといった季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	
減価償却費	754,200千円	減価償却費	695,748千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	570,201	16	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	641,373	18	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損益 計算書計上額 (注3)
	土木事業	建築事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	34,627,923	15,264,706	49,892,629	772,648	50,665,278	-	50,665,278
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	39,066	39,066	767,522	806,588	806,588	-
計	34,627,923	15,303,772	49,931,695	1,540,171	51,471,866	806,588	50,665,278
セグメント利益	1,843,201	589,825	2,433,026	132,690	2,565,717	2,664	2,568,381

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業及び環境事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損益 計算書計上額 (注3)
	土木事業	建築事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	39,625,592	13,342,376	52,967,969	690,414	53,658,383	-	53,658,383
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	28,145	28,145	739,330	767,475	767,475	-
計	39,625,592	13,370,521	52,996,114	1,429,744	54,425,859	767,475	53,658,383
セグメント利益	2,828,360	721,565	3,549,925	178,269	3,728,195	1,469	3,729,665

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業及び環境事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額1,469千円は、セグメント間取引消去5,095千円及び固定資産の未実現損益の調整額3,625千円であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益	41円95銭	67円59銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	1,495,032	2,408,156
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	1,495,032	2,408,156
普通株式の期中平均株式数(千株)	35,635	35,631

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月8日

東鉄工業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高村 守 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 阿部 與直 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東鉄工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東鉄工業株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。